

<報道関係用資料>

2013 年 3 月 4 日

小容量パック米飯の製造能力が大幅向上
～サトウのごはん 新ライン稼働開始～

佐藤食品工業株式会社（本社/新潟市、代表取締役社長/佐藤 元、以下「当社」といいます）は、昨年5月に無菌包装米飯（以下、「パック米飯」）の専用工場である東港工場に、6本目のラインの増設を決定し、かねてより増設工事を行ってまいりましたが、このたび工事が完了し、新しいラインが本日、3月4日（月）よりテストランを開始し、近日中に本稼働いたします。

一昨年の東日本大震災以降、これまでにパック米飯を食べたことがないお客様からも、あらためて非常食や備蓄用としてパック米飯の価値が見直されたことなどもあり、今後も更なる市場の拡大も見込まれているところ、この新ラインの増設により、当社では北海道工場（岩見沢市）の2ラインと併せて合計で8ラインを有することとなり、「パック米飯」の製造能力は、現在の日産68万食から約80万食へと約20%の増産を見込んでおります。

当社は、今後、消費者の皆様への商品の安定供給を実現し、もって、持続的な企業価値の向上をはかってまいります。

■増設設備の概要

名 称：東港第二工場 Gライン

所 在 地：新潟県北蒲原郡聖籠町東港3丁目78番1号

投 資 額：17億5千万円

生 産 能 力：日産 11万5千食（既存ラインでは10万食）

特 徴：（1）小容量パック米飯（※1）の製造に対応したライン構成

- ・これまで当社が蓄積したノウハウを駆使した生産体制により、内容量に関わらず効率的かつ安定的な生産が可能となり、今後の小容量パック米飯の需要増に対応いたします。

（2）合理化によりロスを削減

- ・全行程でロスを見直し、省力化、スピード化を図ったことにより、現在の10万食/1日から11.5万食/1日の生産量が可能となりました。

（3）徹底した品質管理

- ・食品安全マネジメントシステム ISO22000 に準拠した独自のシステムで、より一層お客様に信頼されるパックご飯を提供してまいります。

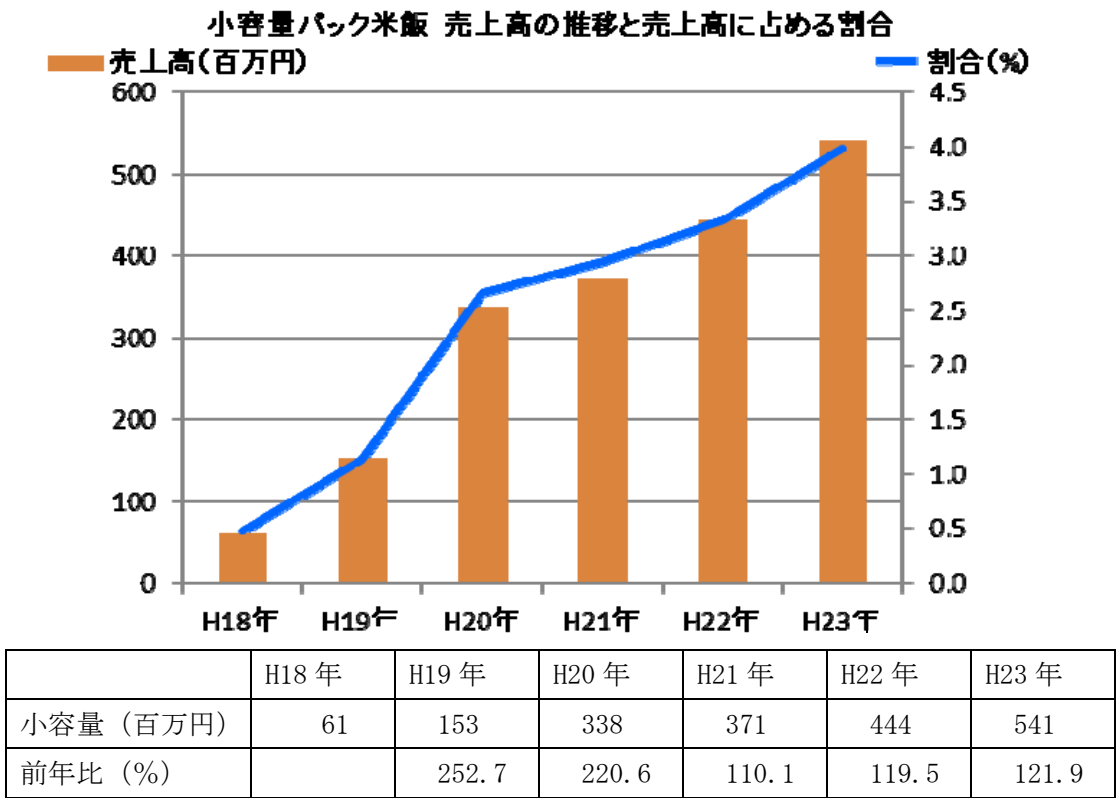
■小容量タイプのパック米飯について

昨今、当社のパック米飯の売上の中で、小容量タイプが主要消費者層である高齢者の方々にご支持いただき、着実に伸長しております。（表1参照）

これは、高齢者の方々の嗜好が少量でかつ美味しいものを望む傾向が顕著であることから、簡便なパック米飯をご支持いただいている結果であると捉えております。今後、ますますその傾向が強まる国内の少子高齢化社会において、小容量タイプのパック米飯への需要は増大していくものと予想されています。

※1 本文内における「小容量パック米飯」とは、130 g、150 g の容量と定義した。

■表1 小容量パック米飯の売上高（平成18年～平成23年）



※H18年の前年比は、小容量パック米飯の発売初年度の為、記載しない。

■図1 サトウのごはん 200 g と 130 g の比較



《本件に関する報道関係者のお問い合わせ先》

佐藤食品工業株式会社 担当:総務部 古谷 洋介 TEL 025-275-1100

《商品に関するお客様からのお問い合わせ先》

佐藤食品工業株式会社 お客様係 025-275-7100 土、日、祭日を除く9:00~17:00